

平成24年度交流学習事業

実績報告

仙台市教育委員会 学校規模適正化推進室

目次

1	交流学习事業について・・・・・・・・・・・・・・・・	1
2	平成24年度交流学习事業の成果と課題・・・・・・・・	2
3	実施報告書	
	・ 生出小学校・坪沼小学校(H21～)・・・・・・・・	4
	・ 作並小学校・大倉小学校(H21～)・・・・・・・・	6
	・ 根白石小学校・福岡小学校・実沢小学校(H21～)・・	8
	・ 秋保小学校・馬場小学校・湯元小学校(H22～)・・	10
	・ 根白石中学校・住吉台中学校(H22～)・・・・・・・・	12
	・ 秋保中学校・南光台中学校(H24～)・・・・・・・・	14
	・ 広陵中学校・折立中学校(H24～)・・・・・・・・	16
4	平成25年度交流学习事業の実施内容（一覧）・・	18
5	平成25年度年間スケジュール・・・・・・・・	19

※巻末に「先生方の声」と「子どもたちの声」を掲載。

交流学習事業について

小規模校における教育環境の向上を図る新たな方策として、学校間で合同授業等を行う交流学習事業を実施しています。

交流学習事業の対象校は、仙台市教育委員会が平成 20 年 8 月に策定した「仙台市立小・中学校の一定規模確保に向けた実施方針」の中で、一定規模の基準（小学校：12 学級以上，中学校：9 学級以上）を満たしていないものの，通学距離の基準（小学校：概ね 4km 以内，中学校：概ね 6km 以内）を超える地域があるため隣接校との統合が難しいことから，統合以外の「新たな方策」を検討する必要があると位置づけた小学校 16 校（うち分校 2 校），中学校 4 校です。

【 目 的 】

小規模校の児童や生徒が，授業や学校行事などを合同で行い，新しい出会いの中から，より多くの仲間とのかかわり合いを持ち，学び合う楽しさや意義を体験するとともに，思考力やコミュニケーション力，あるいは多様な人間関係の中での協調性等をより一層身に付けていくことができるような教育環境の向上を目的としています。

【 概 要 】

交流学習事業は平成 21 年度から平成 23 年度までモデル事業として実施し，事業の効果や課題を検証してきました。平成 21・22 年度の 2 年間のモデル事業として小学校 8 校（4 事業），平成 22・23 年度の 2 年間のモデル事業として 3 小学校（1 事業），2 中学校（1 事業）において実施しました。

モデル事業を実施した結果，授業時数の確保などの課題はあるものの，コミュニケーション力の向上や中一ギャップの解消などにつながる有意義な事業であることが確認できたため，平成 24 年度は小学校 10 校（4 事業），中学校 6 校（3 事業）で本格実施をしています。今後も課題などに関して検討を加えながら，よりよい形での展開を図っていくために実践を積み重ねていきます。

（参考：これまでの取り組み）

学校名	H21	H22	H23	H24	備考
荒浜小・東六郷小					H21・22 はモデル事業として実施。 H23 より本格実施。
生出小・坪沼小					
作並小・大倉小					
根白石小・福岡小・実沢小					※実沢小はH23 より実施。
秋保小・馬場小・湯元小					H22・23 はモデル事業として実施。 H24 より本格実施。
根白石中・住吉台中					
秋保中・南光台中					H24 より本格実施。
広陵中・折立中					

※荒浜小・東六郷小の交流学習については，津波により学校施設が使用できなくなるなどの理由で，平成 23 年度に実施困難と判断。

※住吉台中，南光台中，折立中については，一定規模の基準を満たしています。

平成 24 年度交流学習事業の成果と課題

平成 24 年度交流学習事業担当者会（H25. 1. 25 開催）での実施校の報告より

1 成果

○児童生徒の変容

- ・他校の児童とグループをつくり多くの活動をすることで、自分と異なる考えに触れる機会が増えた。
- ・他校の児童とお互いに伝え合う活動を通して、表現力や他者を理解する力が培われた。
- ・コミュニケーション能力を高めることにつながる、互いの多様な価値観を認め合えるという経験ができた。
- ・低学年で、国語や算数など普段の授業での交流を実施し、大勢の中で自分の意見を発表する経験ができた。
- ・他校の生徒の取組を自分たちの学校での学習活動に生かすことができた。昨年度と比べて、合唱の声の出し方が違っていると感じた。
- ・単学級で1年生の時の友達関係が6年間続く子どもたちが、他校と交流することで新しいかかわりを持ち、その仲間と中学校へ進学するので、人間関係の変化への不安解消にもなった。
- ・自分たちとは違う意見を聞いたり、他校の先生の指導や授業を受けたりすることが良い刺激となり、自校での学習の励みになった。
- ・合同合唱コンクールで学級対抗を経験できた。また、異なる環境の学校との交流が、お互いにとって刺激となり、自分たちの地域・学校を振り返るきっかけになった。

○授業内容の工夫

- ・1時間目から4時間目まで普段の授業に沿った交流を計画し、学習だけではなく休み時間にも児童が触れ合うことができ、いろいろな遊びでコミュニケーションをとることができた。
- ・中学校を会場に設定して、授業参観や中学校生活のオリエンテーションを取り入れ、小中連携を図った。
- ・合同合唱コンクールの実施や相手校の文化祭に参加することで、生徒だけではなく地域の方々とも交流できた。
- ・合同実施する修学旅行で、事前の計画段階から他校の児童とグループを組み、交流が深まるようにした。そのグループをその後の交流でも生かし、より交流が深まるようにした。

○運営面での工夫

- ・大まかな計画は前年度に済ませ、細部の調整を実施直前に行った。
- ・事前の打合せについて、複数回分まとめて行ったり、電話やファックスを活用したりすることで負担軽減を図った。
- ・相手校の空き教室を利用して一日授業を行い、移動にかかる時間のロスを減らした。

○その他

- ・教職員も他校とのやり取りが様々な考えに触れる機会となり、刺激を受けている。また、学校同士・教職員同士の関係も深まるのが交流での児童の活動の広まりに反映されている。
- ・交流学習を続けてきて児童の変容を目の当たりにしており、大事な事業であるという意識が教職員の中で高まっている。

2 課題

○児童生徒への配慮, 交流内容の工夫

- ・授業時間外に交流の準備を行う場合があり, 児童の負担にならないような配慮が必要。
- ・児童生徒がより良い形で自分の意見や考えを表現できるように, 授業内容や場面設定に工夫ができるが良い。

○運営面

- ・担当する教職員がほぼ毎年変わるため, 事務の引継ぎや実施段階での苦労がある。
- ・児童生徒にとって交流回数が多いほどよいと思うが, 通常の授業との調整や移動の時間のロスへの対応が必要となってくる。
- ・早い段階で次年度の計画を立て, 行事との調整や打ち合わせを効率よく行う必要がある。

3 今後に向けて

- ・普段の授業や生活の場面での交流は成果が大きかったので, 引き続き取り入れたい。
- ・教職員同士の交流をさらに深め, 実施校同士の連携がよりスムーズに行えるようにしたい。
- ・学校全体でより交流に取り組めるよう体制を整えたい。
- ・教職員の個性を生かした活動を取り入れたい。
- ・予算を増やして回数を増やすとより充実したものになるのではないかな。
- ・行事などでの学校単位, 学級単位の交流だけではなく, 個人と個人が交流できる場面をより多く設定したい。(例えば生徒会の交流, 学年毎のスポーツ大会, スピーチコンテスト)
- ・交流のあとに実施校で共通のアンケートを行い, 内容の評価と課題の検討を行いたい。
- ・小規模校が新たに規模の大きな学校と交流する際は, 相手校にも交流の意義を見つけてもらうことが必要だと考える。

4 次年度以降の取組みに向けて

24年度は, 小学校10校(4事業), 中学校6校(3事業)で本格実施した。

小学校の事業では, 中学校区内の近隣の学校同士で交流し, 特別活動や総合的な学習を中心に活動していること, 中学校の教師による外国語活動, 中学校ガイダンス等の小中連携の視野も含めて取り組んでいることが特徴となっている。

中学校の事業では, 22・23年度モデル事業の根白石中と住吉台中の事業に, 広陵中と折立中, 秋保中と南光台中の2事業が新たに加わり3事業で実施し, 小規模校と一定規模校の組み合わせであること, 音楽(合唱コンクール・練習)を通じての交流が主であることが特徴となっている。

担当者会議では, 実施校より成果や課題の他, 授業内容や運営面の工夫や新たな交流学习の内容等も紹介され, 小規模校の課題を解決していく方法として交流学习は有用であるという報告がなされており, 今後も各校の取組や成果について実績として広く知らせ, 課題について調整を行いながら次年度の事業を進めていきたい。

平成 24 年度交流学習事業 実施報告書

1 実施学年

学 校 名	第 6 学年	第 5 学年	第 2 学年	第 1 学年
生出小学校	10 人 (1 学級)	11 人 (1 学級)	11 人 (1 学級)	12 人 (1 学級)
坪沼小学校	4 人 (1 学級)	0 人 (0 学級)	2 人 (1 学級)	2 人 (1 学級)

※「児童生徒数」及び「学級数」については、平成 24 年 5 月 1 日時点の数値を記載してください。

2 実施目標

目標 (テーマ)	学校間交流を通じて、多様な人間関係の中で適切に自己の表現する力と他者を理解しようとする人間性を育む。
背景・理由	日常の学校生活の中で関わることができる同学年の児童が限られてしまう。また、長期間限られた人間関係の中で過ごしてきているため、児童相互の意思疎通が容易な反面、コミュニケーション力が育ちにくい。

3 実施結果

回	実施日	実施学年	会場	実施教科・領域	移動手段
第 1 回	6 月 11 日(月)	5・6 年	坪沼小学校	特別活動 交流ゲーム	<input type="checkbox"/> 貸切バス <input checked="" type="checkbox"/> タクシー <input type="checkbox"/> その他
第 2 回	7 月 13 日(金)	5・6 年	生出小学校	特別活動 児童会祭り	<input type="checkbox"/> 貸切バス <input checked="" type="checkbox"/> タクシー <input type="checkbox"/> その他
第 3 回	9 月 5 日(水)	5・6 年	坪沼小学校	特別活動 陸上記録会練習会	<input type="checkbox"/> 貸切バス <input checked="" type="checkbox"/> タクシー <input type="checkbox"/> その他
第 4 回	9 月 14 日(金)	5・6 年	宮城野原 陸上競技場	学校行事 陸上記録会参加	<input checked="" type="checkbox"/> 貸切バス <input type="checkbox"/> タクシー <input type="checkbox"/> その他
第 5 回	11 月 29 日(木)	5・6 年	生出中学校	理科(気体の性質) 生出中学校教師による授業	<input type="checkbox"/> 貸切バス <input checked="" type="checkbox"/> タクシー <input type="checkbox"/> その他
第 6 回	12 月 18 日(火)	5・6 年	生出中学校	総合的な学習の時間 生出中学校職場体験 発表会参加	<input type="checkbox"/> 貸切バス <input checked="" type="checkbox"/> タクシー <input type="checkbox"/> その他

1・2 年生交流 (年度途中から)

第 1 回	9 月 26 日(水)	1・2 年	生出小学校	生出、坪沼両校教師による授業及び 休み時間の遊び・ 生活交流	<input type="checkbox"/> 貸切バス <input checked="" type="checkbox"/> タクシー <input type="checkbox"/> その他
第 2 回	10 月 23 日(火)	1・2 年	生出小学校		<input type="checkbox"/> 貸切バス <input checked="" type="checkbox"/> タクシー <input type="checkbox"/> その他
第 3 回	11 月 27 日(火)	1・2 年	生出小学校		<input type="checkbox"/> 貸切バス <input checked="" type="checkbox"/> タクシー <input type="checkbox"/> その他

4 実施内容

回	授業のねらい	授業の展開
第1回	出会いの会：お互いのことについて知る。	2校混合チームによるミニゲームなどを通し、和やかな雰囲気の中で、お互いのことを知る。
第2回	よつばフェスティバル：生出小学校の児童会まつりで、各校で模擬店を出店し、交流を図る。	生出小学校の児童会まつりに参加し、各校で模擬店を出したり、お客になって交流を深めたりする。
第3回	陸上記録会に向けた練習や応援の練習：陸上記録会に向けて、合同で競技の練習と応援の練習をし、協力して成し遂げる良さを体験させる。	陸上記録会に向けて、合同で自分の出場する種目の練習や、合同で応援の練習を行う。
第4回	陸上記録会：第1地区の陸上記録会に参加し、互いの学校の選手の応援をすることで、団結力や所属感を高める。	陸上記録会の当日、種目に出場する友達に対して、応援したり、友達の頑張りを称賛したりする。
第5回	中学校の先生による授業：生出中学校の先生による授業を体験する。	2校合同で、進学する中学校の先生の授業を受けることによって、中学校生活の一端を味わう。
第6回	中学校の職場体験発表会へ参加：中学校で行われる職場体験発表会に参加する。	中学校で行われる職場体験発表会に2校合同で参加し、先輩の中学生の発表を聞く。

1・2年生交流(年度途中)

第1回	両校の児童が、自己紹介し合いながら、お互いの親睦を深める。次の交流に向けての意識付けを図る。両校の指導者とふれあう。	学活をはじめ、いろいろな学習を一緒にしながら、友だちのよいところを見つけ、互いに認め合う。両校の指導者が交互に授業を行い、指導者とも交流を図る。
第2回	少ない人数ではできなかったボールゲームや班学習を行い、互いのよさを発揮させることで、学習効果を図っていく。	日ごろでは味わえない人数の中で、様々な学習活動を行い、意見の交換や個々の考えを深める。指導者の特性を生かした授業を行う。
第3回	各学校で取り組んでいることについて意見を交換したり、発表し合ったりすることで、友だちのよさを認め合う。	各学校で取り組んでいることを作文に表すなどして、3回の交流で学んだこと・よかったことを発表し合う。

5 評価（成果と課題）

児童生徒の変容	(交流活動時の様子) 低学年については、交流活動の1回目から打ち解けて、学習活動を活発に行うことができた。高学年については、一方の学校が6年生の女子のみということもあり、積極的な交流にまで至らなかった。
	(交流学习を通して表れてきた変化) 回を重ねるごとに会話や協力的な行動が増え、自分から他校の児童に話しかけている場面が多くなった。特に低学年では、休み時間楽しそうに遊んでいる場面も多く見られた。
授業内容の工夫	低学年については、各学校のカリキュラムの進捗について調整を図りながらも普段どおりの授業をすることにより、環境の変化の影響を最小限に抑えながら進めてきた。高学年については、行事を中心に例年に倣って行ってきた。
運営面での工夫	(教員の負担、頻度・回数の適否、広報の手段等) 事前に交流のねらいや活動の進め方について話し合いの場を設け、連絡を密にすることにより、効果的な交流を図ることができた。授業の内容についても、両校の事情に配慮しながら進めていたので、活動の途中で支障が出ることはなかった。
今年度の総括	同一学年の友達と触れ合うことの少ない児童にとっては、この事業を通して協力したり切磋琢磨したりすることができ、良い刺激となった。ただ、高学年は、行事をおとした交流を進めてきたが、学年や性別を含め、個人の状況により交流の深まりがもう一歩であった。やはり休み時間など、普段の生活の中での交流により、児童の心が開かれていくと思われる。
次年度へ向けて	今年度は高学年だけでなく、途中から低学年の交流にも取り組んだ。適正化推進室の支援や指導もあり、交流の効果について様々な場面で見ることができた。しかし、来年度は坪沼小が4・5年生だけになり、今までとは違った形での交流を考えていかななくてはならない。幸い、来年度の野外活動が同一日なので、その行事をきっかけとした交流について計画を立て、実践していけるよう調整を図りたい。

平成 24 年度交流学習事業 実施報告書

1 実施学年

学 校 名	第 5 学 年	第 6 学 年
大倉小学校	5 人 (1 学級)	7 人 (1 学級)
作並小学校	6 人 (1 学級)	10 人 (1 学級)

※「児童生徒数」及び「学級数」については、平成 24 年 5 月 1 日時点の数値を記載してください。

2 実施目標

目 標 (テーマ)	交流活動という新しい出会いを通して、より多くの人々との関わりを持ち、学び合う楽しさや意義を体感するとともに、進んで自分の考えや思いを表現するなどコミュニケーション力を高める。
背景・理由	<ul style="list-style-type: none"> ・日常の学校生活の中で関わることができる児童に限られ、多角的なものの考えや発想に触れたり、相互に切磋琢磨したりできる環境にない。 ・長期間限られた人間関係の中で過ごしてきているため、児童相互の意思疎通が容易である反面、コミュニケーション力が育ちにくい。 ・中 1 ギャップの解消とよりよい適応を視野に、早期からの交流が必要である。

3 実施結果

回	実施日	実施学年	会場	実施教科・領域	移動手段
第 1 回	6 月 21 日 (木)	5・6 年	作並小学校	総合的な学習の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 貸切バス <input type="checkbox"/> タクシー <input type="checkbox"/> その他 ()
第 2 回	7 月 10 日 (火)	5・6 年	大倉小学校	総合的な学習の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 貸切バス <input type="checkbox"/> タクシー <input type="checkbox"/> その他 ()
第 3 回	9 月 4 日 (火)	5・6 年	広陵中学校	体育	<input checked="" type="checkbox"/> 貸切バス <input checked="" type="checkbox"/> タクシー <input type="checkbox"/> その他 ()
第 4 回	9 月 10 日 (月)	5・6 年	大倉小学校	体育	<input checked="" type="checkbox"/> 貸切バス <input type="checkbox"/> タクシー <input type="checkbox"/> その他 ()
第 5 回	12 月 6 日 (木)	5・6 年	トヨタ自動車東日本・博物館	社会 総合的な学習の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 貸切バス <input type="checkbox"/> タクシー <input type="checkbox"/> その他 ()
第 6 回	12 月 18 日 (火)	5・6 年	作並小学校・広陵中学校	体育 外国語活動 総合的な学習の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 貸切バス <input type="checkbox"/> タクシー <input type="checkbox"/> その他 ()

4 実施内容

回	授業のねらい	授業の展開
第1回	交流学习1回目であるので、お互いの学校の自己紹介を通し、顔合わせを行い、今後の交流活動の礎とする。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 出会いの会 ・ 温泉を利用した温水プール体験 ・ 合同給食
第2回	それぞれの地域ならではの体験活動を通し、互いの地域を知るとともに、交流を深める。	<ul style="list-style-type: none"> ・ カヤック体験 ・ 湖上での水遊び ・ 合同給食
第3回	陸上記録会参加に向けて、中学校の先生から陸上の指導を受けるとともに、合同で練習することを通し主体的に関わらせる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 陸上記録会に向けての準備運動の仕方 ・ 陸上練習 ・ 応援についての意見交換
第4回	陸上記録会参加に向けて合同で陸上練習を行いながら、友達と主体的に関わる機会を作る。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 合同応援練習 ・ 種目に分かれての陸上練習（東北福祉大学陸上部学生ボランティアによる支援）
第5回	合同の社会科校外学習を通し、共に学び合う体験をさせる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ トヨタ自動車東日本工場見学及び博物館でのグループ交流学习 ・ 移動中の車内での交流
第6回	午前はバスケットボールのゲームを通して友達と主体的に関わる機会を作るとともに、1年の交流を振り返って互いの意見交換を行わせる。午後は中学校の授業参観を通し、中学校への接続を意識させる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ バスケットボールゲームでの交流 ・ 交流学习を振り返って互いの成果等交流会を行い、意見交換を行う。 ・ 中学校1年「英語」の授業参観 ・ 中学校生活のオリエンテーション

5 評価（成果と課題）

児童生徒の変容	（交流活動時の様子） 5年生は初めての体験ということで、当初は緊張を見せていたが、6年生の交流の様子をみたり、また相互の地域を訪問し、その土地ならではの体験活動を共に رفتりしたことにより、回を重ねるごとに親密感を高め、交流を促進することができた。
	（交流学习を通して表れてきた変化） 市の陸上記録会では合同でチームを編成したり、応援したりするなど、学校の枠を越えた一体感を得ることができた。
授業内容の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各地域の持つ特性を生かした体験活動を取り入れ、児童が主体的に関わりを持てる環境づくりを行ってきた。 ・ イベントに終わらず、共通の目標に向かってともに進める活動を行うことによって、交流の意義を高めることができた。 ・ イベントだけで終わらない、内容の充実をめざす。
運営面での工夫	（教員の負担、頻度・回数、適否、広報の手段等） <ul style="list-style-type: none"> ・ 事務的な側面は学年担任以外がサポートし、実際の運営面で担任の主体性が生きるよう配慮した。 ・ 内容によって両校で担当を分担し運営することにより教員の負担を軽減することにつながった。
今年度の総括	同じ顔ぶれの環境の中で過ごすことの多い児童にとり、本事業を通して同年齢の子どもと一緒に活動することは、相互にとってもよい刺激となった。また、今年度は新たに相互の地域以外への校外学習を行い、学校の枠を越えたグループ交流を図りながら学習することができた。
次年度へ向けて	近隣校との距離がある学校としては、移動に伴う交通手段や経費を心配することなく活動できる本事業は大変ありがたいので、今年度のように限られた時間を有効に使う交流学习を次年度も続けていきたい。現在は2校による交流活動であるが、中学校で一部が一緒になる上愛子小の6年生との交流も視野に入れ、より発展的な内容を取り入れた次年度の計画を考えていきたい。

平成 24 年度交流学習事業 実施報告書

1 実施学年

学 校 名	第 4 学年	第 5 学年	第 6 学年
実沢小学校	4 人 (1 学級)	5 人 (1 学級)	4 人 (1 学級)
福岡小学校	7 人 (1 学級)	10 人 (1 学級)	11 人 (1 学級)
根白石小学校	14 人 (1 学級)	20 人 (1 学級)	18 人 (2 学級)

※「児童生徒数」及び「学級数」については、平成 24 年 5 月 1 日時点の数値を記載してください。

2 実施目標

目標 (テーマ)	かかわり合い、豊かな人間性を育てる学校間交流学習の創造
背景・理由	小規模校 (単学級) であるため、学校生活の中でかかわり合うことのできる同学年児童に限られている。そのため、分かり合える人間関係である反面、表現力が育ちにくい。

3 実施結果

回	実施日	実施学年	会場	実施教科・領域	移動手段
第 1 回	6 月 22 日 (金)	6 年	実沢小学校体育館	外国語活動 学級活動	<input checked="" type="checkbox"/> 貸切バス <input type="checkbox"/> タクシー <input type="checkbox"/> その他 ()
第 2 回	6 月 28 日 (木) ～29 日 (金)	6 年	岩手県盛岡方面 (合同修学旅行)	学校行事 総合的な学習の時間	<input type="checkbox"/> 貸切バス <input type="checkbox"/> タクシー <input checked="" type="checkbox"/> その他 (保護者負担)
第 3 回	7 月 19 日 (木)	4 年	仙台市天文台 松森清掃工場	理科 社会科	<input checked="" type="checkbox"/> 貸切バス <input type="checkbox"/> タクシー <input type="checkbox"/> その他 ()
第 4 回	10 月 30 日 (火)	6 年	仙台市天文台 戦災復興記念館	理科 社会科	<input checked="" type="checkbox"/> 貸切バス <input type="checkbox"/> タクシー <input type="checkbox"/> その他 ()
第 5 回	11 月 1 日 (木)	5 年	トヨタ自動車東日本	社会科	<input checked="" type="checkbox"/> 貸切バス <input type="checkbox"/> タクシー <input type="checkbox"/> その他 ()
第 6 回	1 月 22 日 (火)	5 年	NHK 仙台放送局 河北新報印刷センター	社会科	<input checked="" type="checkbox"/> 貸切バス <input type="checkbox"/> タクシー <input type="checkbox"/> その他 ()

4 実施内容

回	授業のねらい	授業の展開
第1回 【6年】	<ul style="list-style-type: none"> ・外国語活動を通してコミュニケーション能力の向上を図る。 ・修学旅行の結団式を行い、修学旅行でのめあてなどを話し合い、確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分を知ってもらったり、他校の児童とコミュニケーションを図ったりできるような自己紹介ゲームを行う。 ・結団式の話し合いで発表し合うとともに、グループごとに自主研修の計画を立てる。
第2回 【6年】	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度と前回までの交流の経験を生かしながら、3校混合のグループで様々な活動を行い、コミュニケーション能力のさらなる向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・3校混合のグループ活動で見学をしたり食事をしたりすることで、感想や考えなどを話し合い、充実した活動を行う。 ・ホテル宿泊を通じて、3校児童による共同生活を体験し、みんなが楽しめるようにする。
第3回 【4年】	<ul style="list-style-type: none"> ・他校の児童との初めての交流学习を行うことで多様な考えをもつ他者との出会いを通じて、自己とは異なる考えを理解しようとする態度を育む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・バスの中で学校や自己紹介を聞き、違いを知る。 ・3校混合のグループに分かれて、天文台や清掃工場内での課題解決学習を行い、感想を発表したり聞いたりする。
第4回 【6年】	<ul style="list-style-type: none"> ・修学旅行での交流経験を生かしながら、自己の考えを的確に伝えることの必要性とその難しさに気付かせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・バスの中で最近の学級や学校のことを話したり聞いたりする。 ・3校混合のグループで、見学施設内での疑問や発見したことをお互いに話し合い、理解する。
第5回 【5年】	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度までの交流の経験を生かしながら、自己とは異なる他者の考えを理解しようとする態度を育む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・バスの中で最近の学校の様子などを発表し合う。 ・トヨタ自動車東日本の見学、質疑応答。 ・3校混合のグループで、見学施設内での課題解決学習をしながら、感想を発表し合う。
第6回 【5年】	<ul style="list-style-type: none"> ・前回までの交流で学んだことを生かしながら、多様な意見や考え方に触れ合い、自己とは異なる立場や考え方を理解しようとする態度をさらに育む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・バスの中での交流（自分のことを知ってもらう） ・事前に学習してきたことや見学して課題として残ったことをグループごとに話し合う。

5 評価（成果と課題）

児童生徒の変容	<p>（交流活動時の様子）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どの学年においても児童は仲良く、温かい雰囲気の中で活動できていた。また、4年生では、幼稚園や保育園が同じ児童は久しぶりで再会したので、懐かしさを感じていた。
	<p>（交流学习を通して表れてきた変化）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交流回数が増えるに従い、他校の児童と進んでかかわろうとする態度が見られた。また、自分の考えを臆することなく話したり、相手の話を受容的な態度で聞いたりすることができるようになった。
授業内容の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・5・6年生は、昨年度も交流学习を経験しているので自己紹介等は簡単に済ませ、グループでの活動の時間を十分に確保した。 ・グループごとの活動ではリーダーを決めさせた。また、活動に当たっては、それぞれのグループに責任をもたせた。
運営面での工夫	<p>（教員の負担、頻度・回数の適否、広報の手段等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校間交流学习を複数回実施した学年は、その都度担任が集まって打合せをする時間の確保が難しいため、事前の下見のときに、効率的に次回の交流学习の計画を立案した。
今年度の総括	<ul style="list-style-type: none"> ・各校とも児童のかかわり合う力やコミュニケーション能力の向上が見られた。学習への意欲、興味・関心も高まり、この交流学习で大きく「力」をつけたと見ている。
次年度へ向けて	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度はもう少し予算を確保していただき、交流学习の回数を増やすことができればと思う。そうすることによって、さらに児童のかかわりは深まり、より充実した学校間交流学习につながると思われる。

平成 24 年度交流学習事業 実施報告書

1 実施学年

学 校 名	第 5 学 年	第 6 学 年
馬場小学校	3 人 (1 学級)	11 人 (1 学級)
湯元小学校	15 人 (1 学級)	15 人 (1 学級)
秋保小学校	10 人 (1 学級)	11 人 (1 学級)

※「児童生徒数」及び「学級数」については、平成 24 年 5 月 1 日時点の数値を記載してください。

2 実施目標

目 標 (テ ー マ)	○学校間交流を通して、多様な人間関係の中で、適切に自己を表現する力と他者を理解しようとする人間性を育む。
背 景 ・ 理 由	○日常の学校生活の中で、関わることのできる同学年の児童に限られており、児童相互の意思疎通が円滑な反面、多様な人間との触れ合いやコミュニケーション能力を育む機会が乏しい。

3 実施結果

回	実施日	実施学年	会場	実施教科・領域	移動手段
第 1 回	5 月 31 日 (木)	6 年	秋保小学校	総合的な学習の時間 修学旅行事前準備	<input type="checkbox"/> 貸切バス <input checked="" type="checkbox"/> タクシー <input type="checkbox"/> その他 ()
第 2 回	9 月 4 日 (火)	6 年	秋保中学校	総合的な学習の時間 (体育) 陸上記録会練習	<input type="checkbox"/> 貸切バス <input checked="" type="checkbox"/> タクシー <input type="checkbox"/> その他 ()
第 3 回	9 月 11 日 (日)	5・6 年	湯元小学校	総合的な学習の時間 (体育) 陸上記録会練習	<input checked="" type="checkbox"/> 貸切バス <input type="checkbox"/> タクシー <input type="checkbox"/> その他 ()
第 4 回	11 月 30 日 (金)	6 年	秋保中学校	総合的な学習の時間 (外国語) 秋保中ガイダンス	<input type="checkbox"/> 貸切バス <input checked="" type="checkbox"/> タクシー <input type="checkbox"/> その他 ()

4 実施内容

回	授業のねらい	授業の展開
第1回	○修学旅行で一緒に行動・宿泊する3校の6年同士が顔合わせをし、修学旅行の準備を行う。	○秋保3校が、自己紹介やゲーム等をする中で交流を深め、会津での交流活動について話し合った。
第2回	○秋保中で、秋保中生徒の指導を受けながら、合同練習を行う中で、互いのよさを認め合い、連帯感をもたせる。	○秋保中生徒の指導を受けながら、種目別練習を行った。
第3回	○秋保3校の合同練習を通して、互いに刺激し合う中で、よさを認め合い、応援練習をすることで、強い連帯感をもたせる。	○湯元小の校庭で、種目別に分かれ、記録をとったり、合同応援練習を行った。
第4回	○秋保中で、3校合同の外国語活動を通して、積極的にコミュニケーションを図ろうとする意欲をもたせる。	○秋保中ガイダンスで、3校合同混合で外国語活動の授業を受け、その後、学校見学と部活動見学を行った。

5 評価（成果と課題）

児童生徒の変容	(交流活動時の様子) ○多様な考え、意見、能力に出会い、向上心をもって活動に取り組もうとする姿勢が見られた。
	(交流学习を通して表れてきた変化) ○年間を通して、児童が触れ合い、人間関係を深めたことで、積極的にコミュニケーションを図ることができるようになった。
授業内容の工夫	○他校とのかかわりを増やすように、グループ編成や場の設定を工夫した。
運営面での工夫	(教員の負担、頻度・回数 of 適否、広報の手段等) ○打合せ時間短縮のため、事前に検討すべきことをメールで伝えたり、データを共有化したりした。
今年度の総括	○交流学习を通して、コミュニケーション能力が高まったと共に、中学校への円滑な移行へと繋げることができたと思う。
次年度へ向けて	○地域のよさを互いに認め合う機会や、自分づくり教育に繋がる交流を取り入れていきたい。

平成 24 年度交流学習事業 実施報告書

1 実施学年

学 校 名	第 1 学年	第 2 学年	第 3 学年
根白石中学校	30 人 (1 学級)	40 人 (1 学級)	23 人 (1 学級)
住吉台中学校	67 人 (2 学級)	100 人 (3 学級)	88 人 (3 学級)

※「児童生徒数」及び「学級数」については、平成 24 年 5 月 1 日時点の数値を記載してください。

2 実施目標

目 標 (テーマ)	他校との交流学習を通して、より多くの仲間とかかわり合い、学び合う楽しさを体験させ、協調性・コミュニケーション力を高める。
背景・理由	<ul style="list-style-type: none"> ・単学級のため同学年の合唱にふれる機会が無く、表現力などの向上が難しい。 ・コンクールという性質を踏まえると他校の演奏を鑑賞する交流は貴重な経験となる。

3 実施結果

回	実施日	実施学年	会場	実施教科・領域	移動手段
第 1 回	6 月 5 日(火)	1 年	住吉台中学校	音楽・合唱	<input checked="" type="checkbox"/> 貸切バス <input type="checkbox"/> タクシー <input type="checkbox"/> その他 ()
第 2 回	6 月 6 日(水)	2 年	住吉台中学校	音楽・合唱	<input checked="" type="checkbox"/> 貸切バス <input type="checkbox"/> タクシー <input type="checkbox"/> その他 ()
第 3 回	6 月 26 日(水)	1・2 年	住吉台中学校	音楽・合唱	<input checked="" type="checkbox"/> 貸切バス <input type="checkbox"/> タクシー <input type="checkbox"/> その他 ()
第 4 回	7 月 2 日(月)	全学年	住吉台中学校	音楽・合唱	<input checked="" type="checkbox"/> 貸切バス <input type="checkbox"/> タクシー <input type="checkbox"/> その他 ()

4 実施内容

回	授業のねらい	授業の展開
第1回	顔合わせ，合同練習 生徒同士が緊張せず，円滑に練習に参加できるようにする。	1年生同士で互いに学年や学級の紹介を行い，課題曲の練習を行う。
第2回	顔合わせ，合同練習 生徒同士が緊張せず，円滑に練習に参加できるようにする。	2年生同士で互いに学年や学級の紹介を行い，課題曲の練習を行う。
第3回	両校合同のパート練習・全体練習 それぞれの学校の良さを感じ，協力して合唱をよりよくしようとする態度を育てる。	学年別にパートに分かれ，練習を行い，最後に体育館で合同による合唱を行う。
第4回	各学年による練習・リハーサル 大勢の人前で歌う体験をし，表現力の向上と意欲を高める。	各学年で課題曲の合唱を互いに鑑賞する。 3年生は，課題曲が異なっていたので，課題曲・自由曲の両方を鑑賞する。

5 評価（成果と課題）

児童生徒の変容	<p>（交流活動時の様子） 最初は，緊張していたが，一緒に歌うことで交流を深めていた。互いのよさを認めあう雰囲気ができていた。</p>
	<p>（交流学习を通して表れてきた変化） 合唱の完成度に対する意欲が劇的に変化し，より美しいハーモニーを目指し，意欲的練習に取り組むようになった。</p>
授業内容の工夫	<p>両校の生徒が交流学习の目的や意義について理解し，互いを高め合うためには，どんな点に注意しなければならないかなどを事前に確認させる。短い時間の中で効果的な練習となるよう，集中力を持って授業に参加するようにさせる。</p>
運営面での工夫	<p>（教員の負担，頻度・回数の適否，広報の手段 等） ・午後の時間を中心に，時間のロスが少なくなるよう工夫する。 ・1・2年生の課題曲を同じものにし，交流学习の内容を一層深める。 ・3年生については，生徒数の事情等で課題曲が異なるためリハーサル時の1回の交流学习とする。</p>

今年度の総括	<p>両校の音楽担当教員が中心となって，交流学习時の授業内容を作り上げた。必ずしも全て満足できるものとはならなかったが，両校の生徒は，互いにより美しいハーモニーを作り上げようと努力した。また，互いの学校に対する尊敬の念を持ち，和やかな雰囲気で交流学习が展開された。</p>
次年度へ向けて	<p>早い段階で，両校共有の課題曲を選定したい。どうしても人数のすくない学校から出向くことになったが，リハーサルは，逆のケースで進めることができないか検討していきたい。</p>

平成 24 年度交流学習事業 実施報告書

1 実施学年

学 校 名	第 1 学年	第 2 学年	第 3 学年
秋保中学校	30 人 (1 学級)	35 人 (1 学級)	38 人 (1 学級)
南光台中学校	130 人 (3 学級)	105 人 (3 学級)	111 人 (3 学級)

※「児童生徒数」及び「学級数」については、平成 24 年 5 月 1 日時点の数値を記載してください。

2 実施目標

目標 (テーマ)	同学年の複数学級で競い合いながら合唱づくりに取り組ませることにより、意欲を高めさせるとともに、単学級ではできない体験を通して、歌うことの楽しさや喜びをより深く味わわせる。
背景・理由	秋保中は、全学年が単学級となるため、合唱コンクールを実施することが難しい状況である。中規模校と合同で合唱コンクールを実施することを通して合唱づくりへの意欲を高め、他校の刺激を受けながらハーモニーが豊かに響き合う合唱を目指したい。

3 実施計画

回	実施日	実施学年	会場	実施教科・領域	移動手段
第 1 回	7 月 4 日 (水)	全学年	南光台中学校	音楽 (中間発表会)	<input checked="" type="checkbox"/> 貸切バス <input type="checkbox"/> タクシー <input type="checkbox"/> その他 ()
第 2 回	7 月 11 日 (水)	全学年	青年文化センター	音楽 (合唱コンクール)	<input checked="" type="checkbox"/> 貸切バス <input type="checkbox"/> タクシー <input type="checkbox"/> その他 ()
第 3 回	9 月 15 日 (土)	有志	南光台中学校	行事 (文化祭参加)	<input type="checkbox"/> 貸切バス <input type="checkbox"/> タクシー <input checked="" type="checkbox"/> その他 ()

4 実施内容

回	授業のねらい	授業の展開
第1回	合同練習会（学年ごと）7/4 ・合唱づくりの途上でお互いに披露し合う中で、今後練習すべき課題を捉えさせる。 <1・2校時：2年> <3・4校時：1年> <5・6校時：3年> 交流授業（学年ごと） ・体育の授業でPA活動を行い、一緒に交流学習をする仲間意識を育てる。	合同練習会 1 合同合唱コンクールについて 2 学級紹介と決意表明 3 合唱披露 4 指導講評 交流授業 1 本時の説明 2 PA活動 3 感想発表 4 指導講評
第2回	合唱コンクール7/11 ・練習成果を十分発揮させることにより、充実感や達成感を味わわせる ・他の学級や学年の発表を鑑賞することにより、より深い表現や技能を学ぶ。	1 開会行事（交流学习の意義の説明） 2 合唱披露 <他学級・学年合唱の鑑賞> 3 閉会行事（指導講評）
第3回	文化祭9/15 そば打ち披露と試食サービス ・南光台中学校の文化祭に参加し、そば打ち練習の成果を発表する。	1 会場セッティング 2 そば打ち披露（試食提供） 3 会場片付け

5 評価（成果と課題）

児童生徒の変容	（交流活動時の様子） ・学級対抗を意識してチームワークを高め、意欲的に合唱づくりに取り組んだ。 ・響き合うハーモニーをめざし、練習の成果を精一杯出して合唱することができた。 ・他校の音楽専科の教員の指導も受け、発声や発音の基礎基本を学んだり、合唱づくりや合唱発表で交流したりし、多方面からの刺激を受け、大いに励みとなり、視野や経験の幅を広げることができた。
授業内容の工夫	・学校相互に、交流の利点をしっかり押さえ、互いの状況を理解できた。 ・校長、教頭、音楽科教員、学年担当それぞれのレベルで、十分に連絡と調整を行い、競い合う中にも、お互いの良さを認め合うあたたかい雰囲気づくりを醸成するように努めた。 ・学年ごとにPA活動を1時間設定し、楽しく交流活動をすることができた。
運営面での工夫	（教員の負担、頻度・回数の適否、広報の手段等） ・学校間相互の連絡調整は、電話、メール等を活用した。 ・経費や準備をお互いの学校で分担しながら進めた。 ・学校だよりで、事前の取り組みの様子を伝えるとともに、当日は半数位の保護者が来場し、生徒の合唱を鑑賞していた。
今年度の総括	・学校間交流を通して、単独校開催では体験することのできない歌うことの楽しさや喜びをより深く味わわせることができた。また、文化祭でのそば打ち披露と試食提供において、秋保中の特色ある教育活動を発信することもできた。
次年度に向けて	・よりよい交流学习にするために以下の2点についてさらに改善していきたいと考える。1点目は交流回数を1～2回増やし、生徒間交流により深まりのある活動となるよう運営していきたい。2点目は校内体制をさらに整備し、計画的に有効な交流活動を組織し展開していきたい。

平成 24 年度交流学習事業 実施報告書

1 実施学年

学 校 名	第 1 学 年	第 2 学 年	第 3 学 年
折立中学校	103 人 (3 学級)	105 人 (3 学級)	108 人 (3 学級)
広陵中学校	18 人 (1 学級)	22 人 (1 学級)	31 人 (1 学級)

※「児童生徒数」及び「学級数」については、平成 24 年 5 月 1 日時点の数値を記載してください。

2 実施目標

目標 (テーマ)	より多くの生徒と関わるために、大規模校との交流における多様な活動や体験を通して、社会性やコミュニケーション能力を身に付けさせる。
背景・理由	本校生徒は、これまで同学年の大きな集団の中で活動する経験が少ない。また、小学校から限られた交友関係で、人間関係も固定され、コミュニケーションの力が不足している。このような理由から交流学習を行う必要があると判断した。

3 実施結果

回	実施日	実施学年	会場	実施教科・領域	移動手段
第 1 回	6 月 29 日 (金)	1～3 年	折立中学校	合 唱	<input checked="" type="checkbox"/> 貸切バス <input type="checkbox"/> タクシー <input type="checkbox"/> その他 ()
第 2 回	7 月 6 日 (金)	1～3 年	折立中学校	合 唱	<input checked="" type="checkbox"/> 貸切バス <input type="checkbox"/> タクシー <input type="checkbox"/> その他 ()
第 3 回	12 月 6 日 (木)	1 年	折立中学校	音楽 (リコーダー)	<input checked="" type="checkbox"/> 貸切バス <input type="checkbox"/> タクシー <input type="checkbox"/> その他 ()

4 実施内容

回	授業のねらい	授業の展開
第1回	折立中学校の合唱縦割り練習に参加し、教えあいながら練習に取り組む姿を見学することで、共に支え合い、協力することの大切さを感じ取る。	<ul style="list-style-type: none"> ・顔合わせ・自己紹介など。 ・広陵中が折立中学校の縦割りによる合唱練習へ参加し、両校生徒が互いに高めあう。
第2回	広陵中では実施していない「合唱コンクール」へ向けてのリハーサルを見学し、発表する姿から切磋琢磨することの大切さを学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> ・折立中学校第3学年の合唱コンクールへ向けてのリハーサル見学。 ・見学した感想を書き、後日折立中学校へ送る。
第3回	8～9人のグループで、自分の意見を積極的に発表したり、他の意見を尊重しながら、表現の工夫をまとめていく体験を通して、生徒のコミュニケーション能力を高める。	<ul style="list-style-type: none"> ・自己紹介を行う。 ・全員で、奏法を学ぶ。 ・班ごとに分かれて、表現の工夫についての話し合いを行い、班ごとに演奏する。

5 評価（成果と課題）

児童生徒の変容	<p>（交流活動時の様子） 第1回・第2回は見学などが多かったこともあり、互いに緊張した表情であった。第3回のリコーダーの授業では話し合いなどで和やかな雰囲気の中で活動する姿が見られた。</p>
	<p>（交流学习を通して表れてきた変化） 2回の交流学习後の、広陵中での合唱練習において、例年より主体的に練習に取り組む姿が見られた。大集団におけるリーダーの指示の出し方なども、よりよいものになったと感じている。また、合唱の歌声も充実したものとなった。</p>
授業内容の工夫	<p>初年度であったこともあり、交流内容は限定されたものとなった。合唱での交流では、互いに感想を述べ合う等の取り組みが必要であったと感じている。また、リコーダーの交流では、話し合いの課題や場の設定をもう少し工夫できればよかったのではないかと感じている。</p>
運営面での工夫	<p>（教員の負担、頻度・回数、適否、広報の手段等） 両校の交流学习担当者が多忙であったこともあり、スムーズに連絡を取り合うことができなかった。来年度は、FAXや電子メール等を利用し、円滑に打ち合わせなどを行っていきたい。</p>

今年度の総括	<p>実施初年度であったこともあり、円滑に運営することができたとはいえない。また、交流内容も改善の余地があると考えている。少ない回数であったが、生徒は折立中学校との交流から、大きな刺激を受けた。それらは、広陵中学校での様々な活動に大いに反映された。</p>
次年度へ向けて	<p>相手校との打ち合わせを前年度の早い時期に行い、より充実した内容となるように交流学习を実施していきたい。また、より生徒同士がふれあうことができるような場の設定や内容の検討を行っていきたいと考えている。</p>

平成 25 年度交流学習事業の実施内容（一覧）

実施校	実施学年・実施教科 等	目指す児童生徒の姿
生出小 坪沼小	生出小（4年：12名，5年：13名） 坪沼小（4年：3名，5年：5名） 特別活動（出会いの会）（児童会まつり） （野外活動） 教科の授業（未定）	<ul style="list-style-type: none"> 交流相手の児童を意識して共に学習したり遊んだりできる。 集団の中で萎縮せずに学習し、コミュニケーションをとることができる。 より多くの交流相手児童と一緒に活動をして、その楽しさを味わう。
作並小 大倉小 上愛子小	作並小（5年：8名，6年：7名） 大倉小（5年：8名，6年：5名） 上愛子小（5年：17名，6年：22名） 総合的な学習の時間（出会いの会）（地域紹介） 体育（陸上記録会練習）（バスケットボール） 作並・大倉・上愛子の3校による交流 総合的な学習の時間（発表・広陵中との連携授業）	<ul style="list-style-type: none"> 交流学習という新しい出会いを通して、互いの学校の友達と主体的・積極的にかかわりを持つ児童。 多くの友達と学び合う楽しさや意義を体感するとともに、進んで自分の考えや思いを表現する児童。
根白石小 福岡小 実沢小	根白石小（4年：9名，5年：13名，6年：19名） 福岡小（4年：10名，5年：7名，6年：11名） 実沢小（4年：6名，5年：4名，6年：5名） 学級活動（修学旅行結団式）国語（学校紹介） 体育（ソフトバレーボール） 理科（校外学習） 社会（校外学習）	<ul style="list-style-type: none"> 多様な意見や考え方に触れ、自己とは異なる立場や考え方を理解しようとする児童。 自己とは異なる立場や考え方を認め、他者を尊重しながら、進んでコミュニケーションを図ろうとする児童。
秋保小 馬場小 湯元小	秋保小（5年：12名，6年：9名） 馬場小（5年：4名，6年：3名） 湯元小（5年：16名，6年：16名） 総合的な学習の時間（修学旅行準備） （陸上記録会練習）（秋保中との連携授業）	<ul style="list-style-type: none"> 同じ中学校に入学する仲間との交流を通して、多様な考え方や価値観に触れながら、意欲的に自分の考えを的確に表現しようとする児童を育てる。
根白石中 住吉台中	根白石中（1年：28名，2年：31名，3年：40名） 住吉台中（1年：84名，2年：68名，3年：102名） 音楽（合唱）	<ul style="list-style-type: none"> 他校との交流によって、多くの人とふれあいコミュニケーション力を高め、意欲的に学習に取り組む生徒。 合唱を通して、音楽のすばらしさを実感し、級友と協力して美しいハーモニーを作りあげようとする生徒。
秋保中 南光台中	秋保中（1年：33名，2年：31名，3年：36名） 南光台中（1年：115名，2年：135名，3年：109名） 音楽（中間発表）（合唱コンクール） 特別活動（文化祭参加・野外活動・職場体験発表）	<ul style="list-style-type: none"> 学級のチームワークを大切にして、意欲的に合唱づくりに取り組む。 適度な緊張感の中で練習の成果を精一杯出し切る。 南光台中学校の複数クラスとの合唱づくりや合唱発表での交流を通し、視野や経験の幅を広げる。 南光台中学校の文化祭に参加し、自信をもって学校紹介をしたりそば打ち実演したりすることを通して、秋保の良さを確かめる。 南光台中学校の複数クラスとの職場体験活動発表での交流を通し、視野や経験の幅を広げる。
広陵中 折立中	広陵中（1年：26名，2年：18名，3年：22名） 折立中（1年：94名，2年：103名，3年：108名） 音楽（合唱） 特別活動（ソーラン発表の練習）	<ul style="list-style-type: none"> 積極的にチャレンジしようとする意欲を持って共に学び合い、高めあう生徒。 生徒同士のふれあいを深め、よりよい人間関係を構築できる生徒。 他の良さを認め合うことができる生徒。

平成25年度年間スケジュール

月	平成25年度事業					下線=幹事校	
	①生出小・坪沼小	②作並小・大倉小・上愛子小	③根小・福小・実小	④秋小・馬小・湯小	⑤根白石中・住吉台中	⑥秋保中・南光台中	⑦広陵中・折立中
4月							
5月	31日【1】T特活 4・5年 生出小			30日【1】B総合 6年 馬場小			
6月	10日【2】T特活 4・5年 生出小 13・14日【3】学行 4・5年 泉ヶ岳	18日【1】B総合 5・6年 作並小	21日【1】B国語・学活 6年 福岡小 27・28日【2】学行 6年 福島方面	20日【2】BT国語 6年 秋保小	04日【1】B音楽 1年 住吉台中 05日【2】B音楽 2年 住吉台中 25日【3】B音楽 3年 住吉台中 26日【4】B音楽 1年 住吉台中 28日【5】B音楽 2年 住吉台中		19日【1】B音楽 1・2・3年 折立中 27日【2】B音楽 1・2・3年 折立中
7月	12日【4】T特活 4・5年 生出小	5日【2】B総合 5・6年 大倉小	10日【3】B理科・社会 4年 天文台他		01日【6】B音楽 1・2・3年 住吉台中	03日【1】B音楽 1・2・3年 南光台中 13日【2】B音楽 1・2・3年 広瀬文化C	12日【3】B音楽 1・2・3年 広瀬文化C
8月							30日【4】B特活 1・2・3年 折立中
9月		18日【3】B体育・学活 5・6年 大倉小		19日【3】B体育 5・6年 湯元小		14日【3】B学行 3年 南光台中	
10月	8日【5】B教科 4・5年 坪沼小		23日【4】B理科・社会 6年 天文台他 25日【5】B社会 5年 トヨタ自動車				
11月	26日【6】T教科 4・5年 生出小	15日【4】B体育・総合 5・6年 作並小		29日【4】BT外国語 6年 秋保中 小中連携			
12月		17日【5】BT外国語 6年 広陵中 3校交流・小中連携		13日【5】BT総合 6年 秋保中 小中連携		16日【4】B特活 1・2年 南光台中	
1月	意見交換会(実施校・対象校・教育センター・学校規模適正化推進室)						
		28日【6】B総合 5・6年 上愛子小 3校交流	21日【6】B社会 5年 NHK放送局				
2月							
3月							

生出小(H21～) 坪沼小(H21～) 作並小(H21～) 大倉小(H21～) 上愛子小(H25～) 根白石小(H21～) 福岡小(H21～) 実沢小(H23～) 秋保小(H22～) 湯元小(H22～) 馬場小(H22～) 秋保中(H22～) 根白石中(H22～) 住吉台中(H22～) 秋保中(H24～) 南光台中(H24～) 広陵中(H24～) 折立中(H24～)

先生方の声

子どもたちは多人数での体育のボールゲームの学習を初めて経験でき、よい刺激となった。また算数や国語では、多様な考え方を出したり集団を意識する活動を取り入れたりしたので、子どもたちは意欲をもって取り組んでいた。教師にとっても、大勢の子どもを相手にする授業の組立や他の教師の指導法を学ぶよい機会となった。

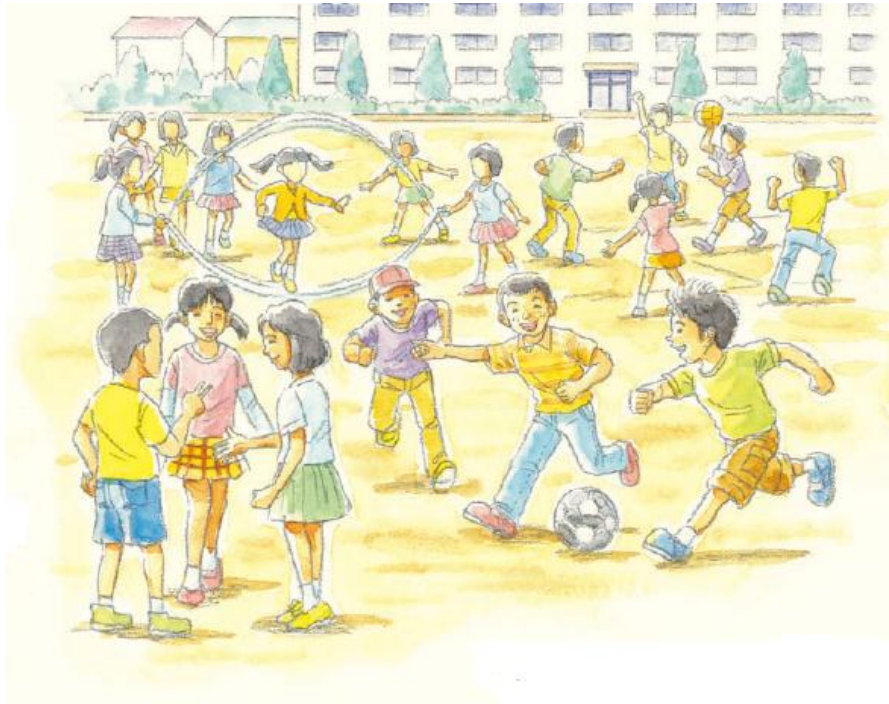


以前から中学校区内の小中4校で交流学习を行っており、それは中1プロブレムへの対応として成果を挙げているが、中学校に進学すると3年間同じ人間関係の中で過ごすことになる。子どもたちには中学校でも大勢の中での集団活動を体験させ、お互いに刺激し合い、向上していくことを身に付けさせたいと思っていた。単学級だと合唱の発表はできるがコンクールは実施できない。そこで、合唱コンクールを合同で開催してくれる学校と交流をしたいとお願いをし、今年度から実施した。大きな学校で一日生活をしたことや、合同練習を一緒に行ったことは子どもたちにより刺激となった。

合同で修学旅行を行っているが、3校混合のグループ編成を行い、子どもたちがどの場面でも交流できるように配慮した。普段は少人数での活動だが、交流学习では周りにたくさんの教師や子どもがいて、子どもたちは張り切って活動をした。

元々幼稚園で一緒だった子どもがいることから、交流学习を自然に受け止め、すんなりと学習に入ることができている。校内では下学年に対してリーダーシップを取る場面はあるが、同学年の中ではそのような場面は少なく、1つの考えに流されたりすぐにまとまったりすることが多い。交流学习では同学年の子ども同士の間での触れ合いがあるので、その中でリーダーシップの取り方を覚えることができるし、自分の考えと相手の考えの折り合いの付け方を覚えることもできる。小学校で交流してきた仲間と進学するので、中学校に入ってから自然に学校生活を送ることができている。交流学习を続けてきての成果だと感じている。

子どもたちの声



みんなと勉強や遊びができてよかった。ドッジボールで負けたけれども、楽しかったです。相手をアウトにするようにがんばりました。キックベースを初めてしました。またみんなとやりたいです。授業では何回も手を挙げて嬉しかった。

小学2年児童

いつもは立候補しないけれども、他の学校の友達と早く仲良くなりたくてリーダーに立候補しました。仲良く活動できるようがんばります。

小学6年児童

人数が多く最初は圧倒されました。緊張しましたが、大勢の人の中で歌うのは楽しかったし、相手校の練習の仕方参考になりました。

中学1年生徒

自分達より人数が少ないのに、大きな声で歌っていてすごいと思いました。どうしたらあのような声が出るのか、見習いたいです。

中学2年生徒

仙台市教育委員会事務局 総務企画部 学校規模適正化推進室

〒980-0811 仙台市青葉区一番町4丁目1-25

東二番丁スクエア 2階

電話:022-214-8432 FAX:022-264-4428

E-mail kyo019031@city.sendai.jp